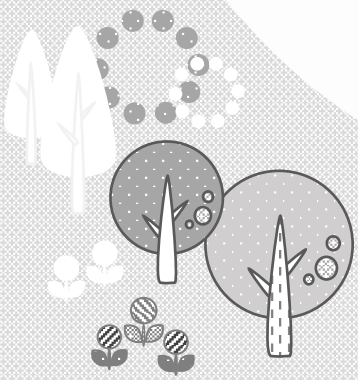
令和２年度

# 自治振興区
# 活動促進補助金

# 実績報告書



# 目次

令和２年度　自治振興区活動促進補助金　実績報告書


● 防災マップ作成事業

山内自治振興区・・・・・・・・・・１

● 高野定住促進事業

高野地域自治振興区連絡協議会・・２

● 比和の里山文化デジタルデータ化事業（先人の知恵に学ぶ）

比和自治振興区・・・・・・・・・・３

| | |
|---|---|
| 1　自治振興区名 | 山内自治振興区 |
| 2　事　業　名 | 防災マップ作成事業 |
| 3　事　業　費 | 463,694 円（うち補助金　370,000 円, 自主財源　　93,694 円） |
| 4　事 業 内 容 | |

近年、全国的に豪雨災害が多発しており、平成 30 年には、庄原市においても甚大な被害が起こっている。平成 30 年の災害時には、避難中に土砂崩れに巻き込まれる可能性のあった方もおり、こうした被害は、またいつ起きてもおかしくない状況である。そこで、災害時等の避難支援体制を整え、減災及び安心・安全なまちづくりにつなげていくために、防災マップを作成し、避難訓練を実施した。

**１．防災マップの作成**

○前年度、地域住民と行ったまち歩きにより把握した危険個所を、地図上に落とし込み、自治会（地区）ごとの防災マップを作成した。

○作成した防災マップは、住民が自分の地域の危険個所を日頃から把握できるようにするため、各戸に配布し、各集会所にも掲示した。

**２．避難訓練の実施**

○作成した防災マップをもとに、自治会ごとに防災研修や防災訓練を実施した。

○生活支援組織である「おたがいさまネット」と連携し、災害時要支援者や高齢者等の避難体制の確認を行い、高齢者救助訓練を実施した。

| | |
|---|---|
| 5　効果・変化 | |

○まち歩きによる危険個所の把握の段階から、多くの地域住民が参加しており、災害が起こりそうになった際の避難の対応等が早くなるなど、住民の防災意識の向上に寄与した。令和 3 年度も引き続き各自治会で訓練を行っており、今後も定期的に実施し、防災意識の向上を図る。

○各自治会長を中心に自らのまちの防災は自らが行うという意識のもと、防災組織体制の確立に取り組んだことで、自助・共助意識の醸成に寄与する事ができた。

○今回の事業で防災マップをデータ化した事で、定期的な更新が可能となった。定期的に更新を行う事で、最新情報による避難経路の確認等が可能となり、避難支援体制の強化が期待される。

| | |
|---|---|
| 6　活動写真 | |

街歩き

マップを利用し防災研修

出来上がった防災マップ

| | |
|---|---|
| 1　自治振興区名 | 高野地域自治振興区連絡協議会 |
| 2　事　業　名 | 高野定住促進事業 |
| 3　事　業　費 | 476,000 円（うち補助金 380,000 円, 自主財源 96,000 円） |
| 4　事 業 内 容 | |

高野地域最大の課題である「人口減少」によって地域の持続性が危惧される中、令和元年度策定した「高野地域未来創生基本ビジョン」に基づき、高野地域が一丸となって「定住促進事業」に取り組む中で、本補助金を活用し、空き家調査やセミナー等を実施した。

①空き家調査事業

空き家の活用について先進事例を学ぶため、空き家対策プロジェクトを進めている「一般社団法人さくらブリッジ」を講師に招きセミナーを開催。また、山内自治振興区などの取り組みを参考に、各自治会等の協力を得て情報収集を行うなど、地域と連携して空き家調査を進め、133 軒の空き家を掘り起こした。

また、高野地域の空き家、空き施設をどのように活用できるか検討するため、フィールドワークとワークショップを行った。

②セミナーの開催

「高野地域未来創生基本ビジョン」の策定を支援していただいた藤山浩氏（一般社団法人　持続可能な地域社会総合研究所所長）を講師に招きセミナーを開催。セミナーでは、定住促進に向けた専門部会（４部会）の取り組み内容について助言を得るとともに、全国各地の定住促進事業の事例について学んだ。

| | |
|---|---|
| 5　効果・変化 | |

・令和 2 年度の実績を踏まえ、令和 3 年度においても、空き家の利活用・流通促進を図り、移住希望者の住居の確保に取り組んでいる。

・令和 2 年度に空き家調査を実施した 133 軒のうち、所有者が特定できた 27 軒へ「所有者アンケート」を実施。うち 7 軒から空き家の活用について承諾が得られ、空き家バンク登録へつなげた。

・また、空き家の活用について不動産会社へ相談したり、移住希望者に対して空き家を紹介したり、庄原市空き家解決ネットワーク等との勉強会を実施している。

・その他、定住促進に向けた専門部会（教育部会、経済部会、未来会議）においても、それぞれ活動を進め、地域住民への報告会を開き、定住促進への機運を高めている。

| | |
|---|---|
| 6　活動写真 | |

空き家セミナー・フィールドワーク

空き家調査の報告会

| | |
|---|---|
| 1　自治振興区名 | 比和自治振興区 |
| 2　事　業　名 | 比和の里山文化デジタルデータ化事業（先人の知恵に学ぶ） |
| 3　事　業　費 | 907,066 円（うち補助金 725,000 円, 自主財源 182,066 円） |
| 4　事 業 内 容 | |

比和町内に残る先人の知恵や伝統文化、変わりゆく自然や里山の暮らしを映像としてデジタル化して後世に残す。また、「先人の知恵を活用した事業を実施して地域の活性化を図る。」ことを目的にビデオ撮影機材、ビデオ編集機材を購入した。事業開始初年度、2 年度の主な活動は次のとおりである。

① 昭和３０年代まで比和町の主要産業の一つであった炭焼きについて、今も受け継がれている炭焼きの知恵や一連の作業、現在の伐採作業の記録を行なった。
② 比和保育所、比和小学校、比和中学校の郷土学習の記録を行なった。
③ VHF ビデオで記録した過去の映像をデジタルデータ化し再編集して公開および保存を行なった。
④ ビデオ撮影・編集講座を開き撮影スタッフの養成を行った。
⑤ ビデオ撮影後は編集を行い、Facebook や YouTube での発信の他、比和自治振興センターやあけぼの荘での上映を行なっている。また、データはハードディスクや DVD に記録して保存している。

| | |
|---|---|
| 5　効果・変化 | |

① 取材ビデオや写真は比和自治振興区の Facebook で常時発信している。また、比和自治振興区 YouTube チャンネルでも公開している。比和町出身者から懐かしいと好評をいただいており、Facebook フォロワー数が 1 年間で約 150 人増加した。
② 編集したビデオは比和自治振センター、あけぼの荘、ふれあいセンターバス待合室での定期的な上映や町民文化祭での上映を行なっている。子どもたちの活動や昔の映像を観ることで集っている人たちの話が盛り上がり交流に役立っている。また、デジタル化による保存活動を行なっていることを広く知ってもらうことで「昔の行事のビデオや写真がある」など情報が寄せられるようになった。
③ 先人の知恵を学ぶ活動から地域資源を活用した体験メニューづくりや製品づくりを行うなど、地域の活性化に役立っている。「そば茶、そばがき、クロモジウォーター、クロモジ石鹸」つくり体験などを森林体験交流施設森林の学舎・比和や農家カフェひばーばの縁側で行なった。クロモジの活用について RCC と N H K のテレビ取材を受けることで活動内容を町内外へのアピールできた。
④ 撮影スタッフを募り広島県無形民俗文化財比和牛供養田植の記録を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。今回は活動できなかったが、撮影スタッフチームを作ることができた。

| | |
|---|---|
| 6　活動写真 | |